

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）： 看護学の基本Ⅱ （ Nursing Fundamentals Ⅱ ）

教員名： 川島理恵

開講年次： 1年次，学 期： 2020年度 後期 ， 必修／選択： 必修

授業形態： 演習 単位数： 2単位 ， 時間数： 30時間（120分×15回）

概要：看護は、対象が健康な生活を送ることができるように支援する役割を持ちます。対象は、健康状態や日常生活の状況、現在に至るまでのプロセスがそれぞれ異なります。同じ病気を抱えていても、必要とする看護も同じではありません。対象が求める看護を実践するためには、看護過程に沿って考えることは重要となります。看護過程の基盤は、私たちが日常的に用いる問題解決の思考過程であり、多くの看護実践現場が用いている方法です。この科目を通して、看護を実践するための基本を学習します。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 看護過程の基盤となる問題解決過程の考え方を理解する。
2. 看護過程の目的や構成要素を理解する。
3. 看護過程の展開が、対象との相互行為を通して行われることを理解する。
4. 紙上の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護上の問題の抽出、看護目標の設定、看護計画の立案を行い、看護過程の基本を習得する。
5. 演習を通して、学生個々が自身の考え方の傾向に気づく。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		せることが単位認定の要件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		認定の要件である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場で実践できることが単
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		位認定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特にありません。

参考書：① ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著；本郷久美子監訳：基本から学ぶ看護過程と看護診断（第7版）,医学書院, 2012.

② 松木光子：JIN ブックス ケーススタディ看護過程—根拠に基づく看護診断から評価まで—(第2版), 医学書院, 2002.

③ 任和子：看護記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド(プチナース BOOKS), 照林社, 2015.

その他授業内で紹介します。

成績評価方法：筆記試験、グループワークなど授業における学習状況、授業の出席状況を総合して評価します。

その他（メッセージ等）：看護を提供するとはどのような事でしょうか。看護過程は、看護を行うための道具と言われます。看護過程を理解していても、「看護とは」が、わからなければ、対象に沿った看護を提供することができません。この授業を通して、看護過程の基本を学びながら、皆さん自身の看護観を少しずつ育ててください。

授業内容(学習項目)

回	項目	内容(キーワード等)
第1・2回	オリエンテーション、 看護過程の概要	看護過程を学ぶ理由 看護過程と問題解決過程 看護過程の構成要素
第3・4回	問題解決過程	日常生活における問題解決過程
第5・6回	情報を集める	看護の対象に関する情報とは 対象の情報を得るために必要なこと ケアリング
第7・8回	情報の整理	情報の整理
第9・10回	アセスメント	アセスメントとは、 アセスメント能力とは、ニードとは
第11・12回	アセスメント	情報の分析・解釈 栄養の側面から
第13・14回	アセスメント	情報の分析・解釈 排泄の側面から
第15・16回	アセスメント	情報の分析・解釈 清潔の側面から
第17.18回	中間のまとめ	グループ発表 アセスメントのまとめ
第19.20回	看護上の問題の抽出	各項目間の関連の検討 看護上の問題の抽出、優先順位の検討

第 21・22 回	看護目標の設定	看護上の問題の見直し 看護過程における対象との相互行為 看護目標の設定、看護計画の立案
第 23・24 回	看護計画の立案	立案した看護計画の見直し O・P、T・P、E・Pの視点
第 25・26 回	実践の評価	看護計画実施後の評価 看護師が実践を振り返る事の意義
第 27・28 回	看護記録	記録の意義、看護と看護記録、SOAP 看護学実習と実習記録
第 29・30 回	まとめ	個別性を踏まえた看護とは 看護観と看護過程